

海の路

S E A R O A D 2 0 1 5

Vol.27

巻頭言	P.1
平成26年度総会	P.2・3
平成26年度担当者会	P.4・5
環境事業委員会活動	P.6~8
魅力検討委員会活動	P.9~11
情報発信委員会活動	P.12
防災委員会活動	P.13・14
瀬戸内海活性化活動支援報告	P.15・16
瀬戸内海クルーズ推進活動支援報告	P.17~19
後援活動報告	P.20
第8回瀬戸内海首長サミット	P.21・22

会員構成

大阪ブロック

大阪府	泉佐野市
大阪市	泉南市
堺市	阪南市
岸和田市	忠岡町
泉大津市	田尻町
貝塚市	岬町
高石市	

徳島ブロック

徳島県	小松島市
徳島市	阿南市
鳴門市	松茂町

香川ブロック

香川県	三豊市
高松市	土庄町
丸亀市	小豆島町
坂出市	直島町
観音寺市	宇多津町

兵庫ブロック

兵庫県	相生市
神戸市	加古川市
姫路市	赤穂市
尼崎市	高砂市
明石市	南あわじ市

愛媛ブロック

愛媛県	伊予市
松山市	四国中央市
今治市	西予市
宇和島市	上島町
八幡浜市	松前町

和歌山ブロック

和歌山県	湯浅町
和歌山市	広川町
海南市	日高町
有田市	由良町

岡山ブロック (山口・福岡・大分)

岡山県	笠岡市
岡山市	備前市
倉敷市	瀬戸内市
玉野市	浅口市

広島ブロック

広島県	大竹市
広島市	東広島市
吳市	廿日市市
竹原市	江田島市
三原市	海田町

国会員

近畿地方整備局	九州地方整備局	中国運輸局
中国地方整備局	近畿運輸局	四国運輸局
四国地方整備局	神戸運輸監理部	九州運輸局

航路情報提供Webサイト 「みなとナビせとうち」

<http://www2.uminet.jp/top/>



QRコードで携帯から簡単アクセス
<http://www2.uminet.jp/knavi.jsp?cd=i>

みなとナビ広島

<http://www2.uminet.jp/>

「みなとナビ Hiroshima」は広島港を発着するフェリー、旅客船の運航状況など、港を利用する方に役立つ情報を提供するWebサイトです。

みなとナビ三原・尾道

<http://www2.uminet.jp/mihara/>

「みなとナビ 三原・尾道」は三原港および尾道港を発着するフェリー、旅客船の運航状況など、港を利用する方に役立つ情報を提供するWebサイトです。

みなとナビ高松・宇野

<http://www2.uminet.jp/takamatsu/>

「みなとナビ 高松・宇野」は高松港および宇野港を発着するフェリー、旅客船の運航状況など、港を利用する方に役立つ情報を提供するWebサイトです。

協議会Webサイト「海の路」

<http://www.uminet.jp/>



海の路
Vol.27



瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会

発行/瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会事務局

協議会Webサイト「海の路」<http://www.uminet.jp/>

みなとナビせとうち <http://www2.uminet.jp/top/>

愛媛県宇和島市宇和

卷頭言



瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会 会長
いり やまと しらる
大竹市長 入山 欣郎

寄稿

会員の皆様におかれましては、平素より瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会活動にご尽力をいただき、厚く御礼申し上げます。

昨年5月、愛媛県松山市にて開催いたしました瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会平成26年度総会及び第8回瀬戸内海首長サミットには、瀬戸内沿岸各地域より総勢20市町の首長をはじめ、近畿・中国・四国・九州から多くの担当者の皆様にご参加いただき誠にありがとうございました。

本総会では、平成25年度の事業・収支決算報告と平成26年度の事業計画・予算案などが議論され、海ネット協定の参加拡大、瀬戸内地域の交流・連携・地域振興にかかる新たな支援制度の活用などについて決議されました。

第8回瀬戸内海首長サミットでは、「瀬戸内・海の路 観光と防災の融合」をテーマとして、海の路を活用した平時の観光振興と災害時の相互応援の構築などについて活発な議論が行われました。

また、議論の成果として、「瀬戸内海首長サミット松山宣言」が採択されました。

「瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定」については、

平成26年度総会



総会の様子

平成26年5月30日 愛媛県松山市

平成26年5月30日(金)愛媛県松山市にて、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会 平成26年度総会を開催いたしました。総会には、瀬戸内海沿岸各地から19市町の首長と会員である各自治体及び地方整備局等の担当者約150名が参加して盛大に開催しました。

第1部の総会では、平成25年度の事業・収支決算報告と今年度の事業計画・収支予算案等について審議を行い、第2部では、「瀬戸内の魅力について」と題して、「瀬戸内海の島々を訪ねて」の著者山口皓三氏よりご講演をいただきました。第3部では、第8回瀬戸内海首長サミットが19市町の首長と大臣官房審議官、四国運輸局長及び地方整備局幹部が参加し開催されました。サミットは、「瀬戸内・海の路 観光と防災の融合」をテーマとして、これまでの防災に係る活動の成果を踏まえ、海ネット会員同士が連携して行う「観光」と「防災」に係る取組を促進させるためには、具体的にどのようなことが必要か等について議論を行いました。また、議論の成果として「瀬戸内海首長サミット松山宣言」を採択しました。

総会の開会にあたり、協議会副会長である清水裕大洲市長より、「瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定」については、この5月末で68の締結会員にまで拡大し、昨年10月には、本協定に基づき、44会員の参加により情報伝達訓練を実施し、本協定の実効性の確保及び防災対策の推進を図る取組が進められています。「受け継ごう、きれいな瀬戸の海」を合いの言葉として活動している、「リフレッシュ瀬戸内」については、海岸周辺の清掃を中心多くの方々がボランティアの皆さんとの協力のもと、今年度で22年目となつた。そして、原油の値上がり等、様々な要因から、今の陸送を中心とした世界か

第1部 総会議事



清水裕大洲市長



松原裕国土交通省大臣官房審議官

「明治に坂の上の白い雲を見つめて上つていった秋山兄弟あるいは正岡子規の話で有名なこの松山、そしてそこを出発していく港を本日拝見させていただき熱い思いを感じた。皆様方が瀬戸内海という共通の財産、苦も楽も共にしていく海というものを共通のテーマにして、多くの方々が集まって、観光あるいは環境、防災をテーマに議論される。本当に有意義な、大事なことだと思っている。」との挨拶をいただきました。

続いて、松原裕国土交通省大臣官房審議官より、「瀬戸内海の防災の面そして観光振興の面、意義のある会議となることを心から期待したい。」との挨拶をいただきました。

「瀬戸内海賊の戦いを描いた『村上海賊の娘』がたった数ヶ月で100万部を突破した。今、この瀬戸内に関わるキヤッチャップ的な取組も始まっており、再び瀬戸内海全体のブームを巻き起こしていきたい。本日の会合を通じて、多くの方々が集まって、観光あるいは環境、防災をテーマに議論される。本当に有意義な、大事なことだと思っている。」との挨拶をいただきました。

平成26年12月17日付けで70市町村にまで締結会員が拡大しており、平成26年6月3日には本協定の応援手続きの検証、習熟並びに連絡体制の確立を図るべく61会員にご参加いただき、情報伝達訓練を実施しました。

また、6月28日には本協定の実効性を高めるために船舶を利用した緊急支援物資輸送の訓練を、松山市と呉市の間で初めて実施し、訓練により離島への船舶を活用した緊急物資輸送の有効性を確認しました。そして、本協議会の骨格事業として、これまで22回を数え、昨年も約4万7千人のボランティアの方々にご参加いただきました。海浜等の清掃活動「リフレッシュ瀬戸内」のほか、瀬戸内地域の交流・連携・地域振興など他の会員の模範となる瀬戸内海活性化活動や瀬戸内海クルーズの推進のためのクルーズ船等歓迎イベントへの支援など、瀬戸内地域全体の振興に繋がるような取組を、海ネットサポートとの連携も活かしながら進めているところです。

今後も、瀬戸内の海の路を通じた地域振興や魅力発信により、本協議会会員同士の絆を深め、海の路ネットワークを活かした活動などによって、更なる連携を図りながら、瀬戸内地域全体の発展に取り組んでまいりたいと思いますので、皆様のご理解・ご協力をよろしくお願ひいたします。

歴代会長

平成3年～平成6年 姫路市長 戸谷 松司
平成7年～平成10年 坂出市長 松浦 稔明
平成11年～平成14年 小松島市長 西川 政善
平成15年～平成17年 玉野市長 山根 敬則
平成17年～平成18年 玉野市長 黒田 晋
平成19年～平成20年 下関市長 江島 潔
平成20年 下関市長 中尾 友昭
平成21年～ 大竹市長 入山 欣郎

しかしながら、「リフレッシュ瀬戸内」の参加人数は年々減少しており、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会の取り組みの理解を深める目的を達成するところから、参加人数の拡大に向け、①短期的な取り組みと②中・長期的な取り組みが議論されました。

- 学校関係や地元企業などへのアプローチを積極的に進め、参加を呼びかける。
- 企業CSR活動の一環として位置づけ、地域内外にプロモーションを行う。
- 参加周知として効果が高い「市政だより」等での告知を徹底する。
- 既設イベント（稚魚の放流など）と連携させ、参加者拡大を図る。

- 成果（回収ゴミ）を活用したイベントへの参加を行う。
- 各会員毎の地域の実情に即した取り組みを引き続き継続していくことで了承されました。
- 子供の心を掴む。
- ソーシャルネットワークを利用した取り組みを行う。
- 学校と積極的に協働し取り組む。

など、単なるゴミ拾いでなく、笑顔を掴むための取り組みにするなどの意見が出され、今後の「リフレッシュ瀬戸内」の取り組みについて参考となる意見が多数ありました。

平成27年度以降、これらの意見を踏まえ「リフレッシュ瀬戸内」を積極的にアピールし、広めていくことで了承されました。

- 海ネットのロゴなどを使用した統一的なプロモーションを行う。（ゴミ袋、軍手の工夫等）
- 子供の心を掴む。
- ソーシャルネットワークを利用した取り組みを行う。
- 学校と積極的に協働し取り組む。

など、単なるゴミ拾いでなく、笑顔を掴むための取り組みにするなどの意見が出され、今後の「リフレッシュ瀬戸内」の取り組みについて参考となる意見が多数ありました。

平成27年度以降、これらの意見を踏まえ「リフレッシュ瀬戸内」を積極的にアピールし、広めていくことで了承されました。

魅力検討委員会



魅力検討委員会の様子

魅力検討委員会では、「海ネットイベントプランコンテスト」の開票作業を行った後、平成26年度の活動状況と平成27年度の活動方針について話し合われました。

平成26年度の活動報告として、次のとおり事務局より説明がありました。

「海ネットイベントプランコンテスト」では、6月16日～9月17日にかけて、各会員にイベント企画の募集を行い、結果として全体で9件の応募が集まり、これらの応募企画について全会員による第1次審査と本日の担当者会にて行われた第2次審査により受賞企画が選出されました。「瀬戸内・海の路利用振興事業」と「海ネットサポート提案事業」は、今年度も継続して募集を行っているところですが、「海ネットサポート提案事業」の2件の申請にとどまっています。これらの活動内容に関連して、「海ネットイベントプランコンテスト」の継続実施、「瀬戸内・海の路利用振興事業」及び「海ネットサポート提案事業」の活用促進について意見交換を行い、寄せられた意見をもとに来年度以降の活動に繋げていくことを確認しました。

また、「海ネットイベントプランコンテスト」受賞者の栄誉を讃えるとともに、イベントのPRを図るため、総会の場における授賞式を行うことについて提案することとしました。

最後に、平成27年度の活動方針として、「海ネットイベントプランコンテスト」で選ばれた事業を積極的に支援するとともに、「瀬戸内・海の路利用振興事業」、「海ネットサポート提案事業」により、会員間の連携による防災ネットワーク機能の強化を視野に入れた瀬戸内・海の路の利用振興を推進することについて了承されました。

環境事業委員会活動

リフレッシュ瀬戸内の開催について 全体拠点地レポート

香川ブロック 香川県坂出市

平成26年6月1日～8月31日の間、「受け継ごう、きれいで豊かな瀬戸の海」を合い言葉に22回目となる「リフレッシュ瀬戸内」を開催しました。今年度は瀬戸内海沿岸各地256箇所での開催となり、46,809人のボランティアの方々が参加し、305.88tのゴミを回収しました。

全体拠点地となった香川県坂出市（沙弥ナカンド浜、沙弥西ノ浜）では、実施日の7月5日（土）にボランティアの方々約590人が参加し、2.2tのゴミを回収しました。また、市ホームページ、市ツイッターに開催案内を掲載、記者クラブ（構成・新聞社5社、テレビ5社）に資料を提供しPRを行った結果、四国新聞への掲載、地元ケーブルテレビによる報道がありました。

参加者からは「昨年よりゴミが増えている。暑い中大変ではあるが、大人數でゴミを拾い、徐々に海岸がキレイになっていく様子がうれしかった。」「まさにリフレッシュてきてよかったです。」「朝からみんなで清掃ができる、すがすがしい気分にならなかった。」「改めて環境問題を見つめなおすきっかけとなつた。」などの声が寄せられ、清掃活動の重要性が確認されたのではないかと感じております。

今後も、豊かな自然を受け継いでゆくため、この活動を継続していくことを考えてています。



清掃活動状況

平成26年度リフレッシュ瀬戸内実施結果

府県	ブロック拠点	実施箇所数	参加人数(人)	ゴミ収集量(t)	府県	ブロック拠点	実施箇所数	参加人数(人)	ゴミ収集量(t)
大阪府	大阪市	8	1,794	8.70	徳島県	阿南市	11	3,523	9.83
兵庫県	神戸市	23	5,337	20.72	愛媛県	西条市	83	7,740	78.16
和歌山県	和歌山市	5	1,809	20.70	周防灘(山口県)	柳井市	25	10,158	51.53
岡山県	備前市	10	3,381	13.30	周防灘(福岡県・大分県)	姫島村	3	535	4.20
広島県	竹原市	36	5,408	41.39	合計	—	256	46,809	305.88
香川県	坂出市	52	7,124	57.35					

情報発信委員会

GoogleアナリティクスによるHP閲覧に関する分析の状況報告と今後の対応について議論が行われました。(1)についてはWebサイトに「いいね」ボタンを設置しFacebookなどを介したWebサイト情報拡散の試みについて、(2)についてはスマートフォン用画面からの閲覧者が3割以上あるが小さい画面では見づらく敬遠されている可能性が高いことなどの分析結果を基に、人気情報を充実させリビターを増やすこと、各会員のホームページと海ネットWebサイトとの相互リンクを設定していました。

今後の取り組みについては、スマートフォン用画面の開発実施、また平成27年度の活動方針については引き続き分析を継続し各実行委員会と連携を取り、W ebサイトのアクセス数増加に向けた取り組みを行うとともに、Webサイトを閲覧者にとっての良きデータベースとして情報を充実させていくことに



情報発信委員会の様子

防災委員会では、「瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定（海ネット協定）」により設置されている協定運営協議会を同時開催し、海ネット協定の実効性の確保について討議が行われました。平成26年6月28日に実施された「瀬戸内海における災害時の広域相互応援訓練」について報告がありました。今年度の活動として、迅速な応援に資するための共有可能な資機材・物資リストや連絡体制の確保のための担当者名簿の更新を行ったとの報告がありました。その後、情報伝達訓練の実施報告があり、訓練にかかる意見照会の結果を踏まえた改善案について、次回の訓練で活用する事を確認しました。複数の会員が実施する海の路を通じた防災訓練に対する支援制度である「防災対策推進活動支援事業」について状況報告があり、今後も防災対策推進活動支援事業の実効性について状況報告が引き続き行うことを見込んだ。また、平成26年6月28日に実施された「瀬戸内海における災害時の広域相互応援訓練」について報告がありました。平成27年度の活動方針として、引き続き資機材・物資リスト、担当者名簿の更新や訓練等の活動を推進し、海ネット協定の実効性の確保を図ることを確認しました。会員からは、発災時に必要な資機材について、他会員へ購入依頼が出来ないか、また海上輸送の実効性について港湾の使用や船舶の調達など各会員はどのように調整しているのかなどの意見がありました。そのほか、防災対策推進活動支援事業をより活用しやすくなるよう支援の内容について、協定締結会員に対し、意見照会を行い検討することが了承されました。翌日は、湯浅町の重要な伝統的建造物群保存地区、広村堤防及び稻むらの火の館（津波防災教育センター）を視察しました。

重要伝統的建造物群保存地区では醤油発祥の地としての説明や伝統的建造物群の説明を受け、町としての取り組みを伺い、広村堤防・稻むらの火の館では安政の大震災による津波の被害を受けた村における当時の状況、災害からの復興や地域での防災教育について学びました。



稻むらの火の館



防災委員会の様子

リフレッシュ瀬戸内 ブロック拠点地レポート

環境事業委員会では、「ゴミを捨てない」、「ゴミを捨てさせない」といったゴミ排出抑制につながる予防的な取り組みを推進させるために、平成14年度から瀬戸内海沿岸地域の美化活動「リフレッシュ瀬戸内」と連携して、国際ビーチクリーンアップキャンペーンで実施されている手法を取り入れた「海の健康診断調査」(ゴミの組成調査)を実施しています。

平成26年度は全ブロック中10箇所において調査を実施しました(伊予市は同一市内で実施のため、1箇所として整理)。なお、実施箇所及び実施結果につきましては、以下のとおりです。

素材別に見ますとプラスチック類と発泡スチロール類が全体的に多く、過去と同様の結果が得られました。(プラスチック率69.9%)これまでの継続的な調査により、ゴミの地域特性が明らかになってきており、瀬戸内海に住む人々のゴミに対する意識向上に役立っています。今後も調査を継続していくことによって、瀬戸内海全体で共通するゴミ、各地域の特徴的なゴミ情報を発信し、ゴミ排出抑制への啓発活動に役立て、美しい瀬戸内海を次世代に継承していく取り組みに繋げていきます。

海の健康診断調査を実施しました。

環境事業委員会では、「ゴミを捨てない」、「ゴミを捨てさせない」といったゴミ排出抑制につながる予防的な取り組みを推進させるために、平成14年度から瀬戸内海沿岸地域の美化活動「リフレッシュ瀬戸内」と連携して、国際ビーチクリーンアップキャンペーンで実施されている手法を取り入れた「海の健康診断調査」(ゴミの組成調査)を実施しています。

兵庫ブロック

西宮市(甲子園浜海岸) 雨天中止

広島ブロック

竹原市(的場海岸)



(参加者からの意見)
海岸の種類や持参されたゴミがどんな物があるか判った。特に、自然ゴミより人間ゴミが多いことに驚いた。調査する中で海浜が汚染されていることが判り、これから海水浴シーズンを迎えるに当り、きれいにしなければならないと言う気持ちになった。海浜へゴミ捨てないという意識を持っていかなければならぬ。リフレッシュ瀬戸内の統一行動に、今回は広島県の拠点地とあって、県の幹部職員を始め、多くの方の参加がありました。また、広島からは日本旅行業協会の団体の参加もあり、最近では例がないほどの参加者であった。

和歌山ブロック

和歌山市(加太海岸)



(参加者からの意見)
砂浜に海草や雑草が目立つ。捨てられるゴミの種類、量等の変化がわかる。例年に比べ比較的のゴミが少なかった。

大阪ブロック

大阪市(大阪南港野鳥園)



(参加者からの意見)
大阪市の川の上流から流れているゴミでの生活用品のゴミが多く含まれているのを把握できた。細かいゴミが多く、場所によつては草に絡んで回収しづらく、放つておけば野生の生き物に悪影響を与えるものも多かったように思った。

岡山ブロック

浅口市(青佐海岸)



(参加者からの意見)
捨てられるゴミの傾向がわかった。海水浴に来ていた人の邪魔にならないよう作業をすすめる事に苦労した。

倉敷市(沙美海岸)



(参加者からの意見)
ゴミの量や内容が具体的に分かった。

周防灘ブロック(山口・福岡・大分)

岩国市(青木海岸)



(参加者からの意見)
海岸のゴミの量や種類を把握できた。調査区域の設定が難しかった。清掃箇所の中で平均的な状態の区域の選定と、清掃参加者への調査区域の周知徹底

香川ブロック

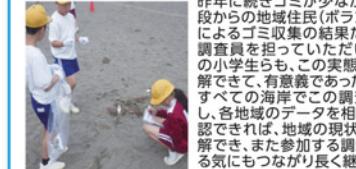
坂出市(沙弥西の浜)



(参加者からの意見)
海からの風が強くて、調査エアを示すために設置したボールやビニール紐が絶えず吹き飛ばされそうになっていた。昨年との相違等を確認することができよかったです。

徳島ブロック

阿南市(北の臨海岸)



(参加者からの意見)
昨年に続きゴミが少なかった。普段からの地域住民(ボランティア)によるゴミ収集の結果だと思われる。調査員を担つていただいた地域の小学生らも、この実験がよく理解でき、有意義であった。
すべての海岸でこの調査を実施し、各地域のデータを対象的に確認できれば、地域の現状をより理解でき、また参加する調査員のやる気にもつながり長く継続できると思われる。

愛媛ブロック

伊予市(森海岸)



(参加者からの意見)
各海岸のゴミを調査によって把握ができるため、市民の問い合わせに対して状況のお知らせができる。さまざまな種類の漂流物があり、分別が大変であった。

伊予市(新川海岸)



伊予市(尾崎海岸)

大阪ブロック

大阪市(大阪南港野鳥園)

プラスチック類	94.3%
発泡スチロール	5.7%

兵庫ブロック

西宮市(甲子園浜海岸)

雨天中止

和歌山ブロック

和歌山市(加太海岸)

プラスチック類	70.8%
発泡スチロール	16.6%
紙・布・複合素材他	4.2%

岡山ブロック

浅口市(青佐海岸)

プラスチック類	76.9%
発泡スチロール	15.4%
金属	7.7%

広島ブロック

竹原市(的場海岸)

木片(自然のもの以外)	32.3%
プラスチック類	30.8%
発泡スチロール・ガラス類	15.4%

香川ブロック

坂出市(沙弥西の浜)

プラスチック類	53.4%
発泡スチロール	33.4%
金属・ゴミ混合素材他	3.3%

徳島ブロック

阿南市(北の臨海岸)

プラスチック類	84.5%
発泡スチロール	7.1%
金属	4.8%

周防灘ブロック(姫島村)



7月19日(土)、みつけ海岸において112人(大人4人子供69人)が参加し、1.0tのゴミを回収しました。

(参加者からの意見)
「毎年参加しているが、例年に比べゴミが少なく掃除しやすかった。」「清掃することで、海がきれいになるのはとても気持ちよかったです。」「清掃した後は気持ちがいいので、毎年参加したいと思います。」「今年はゴミが少なくてきれいでした。朝から清掃すると気持ちがいいです。」「一昨年、昨年に比べてもゴミが少なかった。今後もこの状態を維持できるよう努めたい。」

周防灘ブロック(柳井市)



7月6日(日)、阿月海岸において330人(大人300人子供30人)が参加し、5.0tのゴミを回収しました。

(参加者からの意見)
「みんなで一緒にすることに意義がある。年々、高齢化が進んできたが、自分たちの年代が中心となって、これからも続けていきたい。」「30年ぐらい前から清掃作業をしているが、これからも体の続く限りは参加したいし、きれいな海を守っていきたい。」「子どもと一緒に海浜のゴミ集めをしました。自分たちの手できれいにした砂浜、海で今年の夏は、子供と一緒に泳ぎます。」

愛媛ブロック(西条市)



7月6日(日)、西条市高田須海岸において500人(大人450人子供50人)が参加し、5.0tのゴミを回収しました。

(参加者からの意見)
「海に関する仕事をしているので、少しでもきれいな海になればと思って参加しました。」「地元に生まれ育った者として、毎年参加しています。できる限り清掃活動に参加しています。」「ゴミがたくさんあって驚いた。ひとりひとりのゴミが碎けて散々しているのに驚いた。ひとりひとりのゴミへの自覚が必要だと思います。」「清掃することで、自分が地域に貢献できているのだと実感できました。」「思っていたよりゴミの量が多かった。」

※全体拠点地レポートは前ページに掲載。

和歌山ブロック(和歌山市)



7月27日(日)、紀の川下流河川敷において1,550人が参加し、14.0tのゴミを回収しました。

(参加者からの意見)
「たくさんのごみを拾って、きれいになった。ごみのポイ捨てはやめてほしい。」「非常に熱かったが、いい汗がかけました。」「初めての参加だったが楽しく清掃ができた。」「大型のゴミが目立っていました。普段からゴミを持ち込まない努力が必要だと思いました。」「久しぶりに訪れたが、昔よりもきれいになっているよを感じた。」「自分の住む町がきれいになるので、これからも参加していきたい。」

兵庫ブロック(神戸市)



6月29日(日)、須磨海岸において89人(大人80人子供9人)が参加し、4.6tのゴミを回収しました。

(参加者からの意見)
「多くのゴミが碎けて散々しているのに驚いた。ひとりひとりのゴミへの自覚が必要だと思います。」「多くの人が海を訪ねる機会でないとあまり行かないでの、新鮮でよかった。今後は海水浴で訪れる」

大阪ブロック(大阪市)



6月28日(土)に大阪南港野鳥園において41人(大人39人子供2人)が参加し、0.6tのゴミを回収しました。

(参加者からの意見)
「多くのゴミが碎けて散々しているのに驚いた。ひとりひとりのゴミへの自覚が必要だと思います。」「多くの人が海を訪ねる機会でないとあまり行かないでの、新鮮でよかった。今後も参加していきたい。」

*クリーンアップ全国事務局の基準に基づいたアイテム別99分類ごとの組成について、各海岸ごとの上位(組成の多い方)から3位まで(個数%)を記載。

魅力検討委員会活動

瀬戸内のブランド化に向けた官民連携活動(海ネットセンター提案事業)

官民連携による瀬戸内の新たな賑わいを創出するため平成23年度に制度化された「海ネットセンター」は、設立当初の55団体から79団体(平成27年1月時点)にまで拡大しています。

「海ネットセンター提案事業」は、行政である会員と民間の海ネットセンターが連携した瀬戸内のブランド化に向けた地域振興への取り組みに対し支援を行うものであり、平成26年度は2件の事業を実施しました。

周南マルーチェ2014

開催日 平成26年7月25日～8月2日
(イルミネーションは、7月25日～8月16日)

開催場所 徳山フェリー乗り場奥公園(山口県周南市)

来場者数 約4,000人

会員及び海ネットセンター名 周南市、NPO法人ライトアップ周南

周南市10周年記念事業として昨年度から始まった「周南マルーチェ」。地元の海産物等を利用したイタリアンをメインとした料理やお酒を楽しく味わえるオープンベースを提供するとともに、夏の海と光のイベントとして、日本夜景遺産認定をうけている徳山下松港の工場夜景に、美しいイルミネーションで彩りを添えました。フェリー乗り場奥公園に飾り付けたイルミネーションのデザインや取り付けは、地元高校生が中心となって行い、地域の方々に港やまちづくりへ関心を持つてもらうことができました。夏の新たな風物詩として定着を図っていくこととしています。

豊穂ひろしま和太鼓フェスティバル

開催日 平成26年10月5日(日)

開催場所 広島みなと公園(広島県広島市)

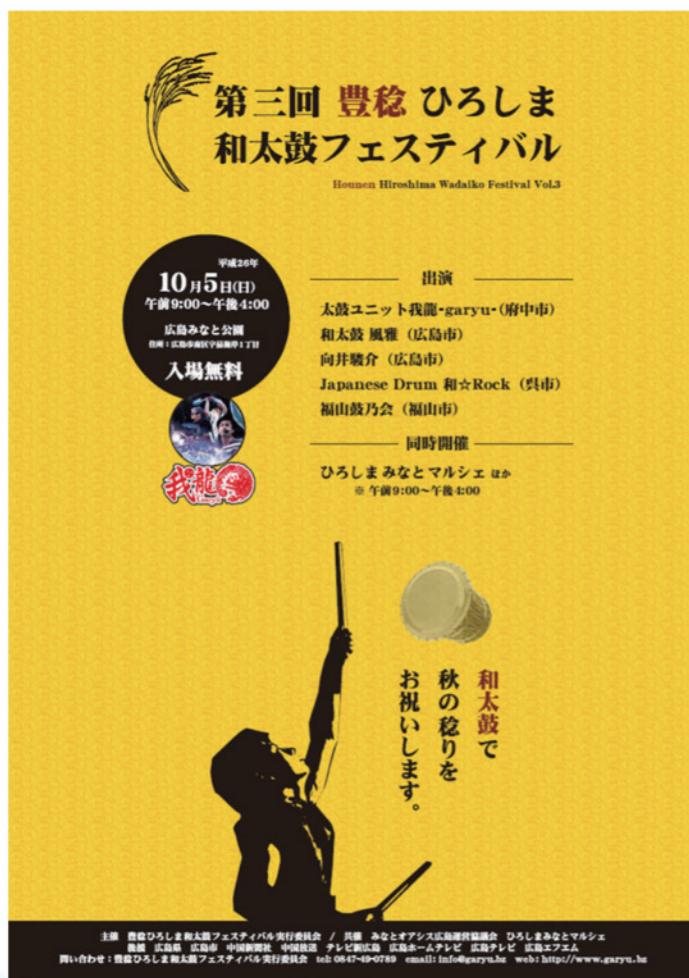
来場者数 約2,000人

会員及び海ネットセンター名 広島市、NPO法人まちづくりミニティデザイン研究所

広島港旅客ターミナル前にある広島みなと公園にて、豊穂を祝つて広島県内各地より、全国で活躍する選りすぐりの和太鼓団体が参加し、日本の伝統文化である和太鼓の競演を行いました。

また、広島県内最大級の生産者直売型青空市場「ひろしまみなとマルシェ」を同時開催し、地元の海産物等を利用した料理や特産品を販売することにより広島の魅力を発信しました。

瀬戸内海の観光ブランドの認知度向上と、国内外からの観光入り込み客や交流人口の拡大を図るため、広島県及び愛媛県にて実施した「瀬戸内しまのわ2014」の認定イベントにもなっており、旅客ターミナル前にあるみなとの施設を利用して実施することにより、市民の港への関心を引き、観光客等ターミナル利用者へのPRとなり広島県だけでなく、瀬戸内全体の賑わいの創出、情報発信力の高いイベントとなりました。



和太鼓の競演

ひろしまみなとマルシェ



会場を彩る色鮮やかなイルミネーション



工場夜景を背景に瀬戸内グルメを味わう



新たな支援制度の創設 (海ネットイベントプランコンテスト)

瀬戸内の豊かな自然環境や歴史的な地域文化の保全・継承や、瀬戸内ブランドの価値の向上など、オリジナリティ溢れる地域活性化イベント等への支援を拡充するため、「海ネットイベントプランコンテスト」を行い、平成27年度からの支援事業開始に向けた取り組みを行いました。

「海ネットイベントプランコンテスト」は、事前に企画した瀬戸内の魅力向上させるイベントプランを会員から募集し、コンテスト形式より支援対象イベントを決定するものであり、継続的に実施しているイベントの発展、目的意識の明確化、会員間の情報交換の促進などの効果も期待するものです。

多くの会員から応募のあった平成27年度の各イベント企画に対して、海ネット協議会の全ての会員からの評価による審査により、受賞対象企画が選出されました。これらの企画に対しては、平成27年度に海ネット協議会より支援するとともに、他の会員との連携も視野に積極的な広報を図ることとしています。

最優秀賞	防府市(山口県) 「レインボーあかねで行く 濑戸内海おさんぽクルーズ」
優秀賞	岬町(大阪府) 「深日港フェスティバル」
奨励賞	兵庫県 「姫路港ふれあいフェスティバル（夏版・秋版）」

情報発信委員会活動

スマートフォン用Webサイト画面を開発しました。

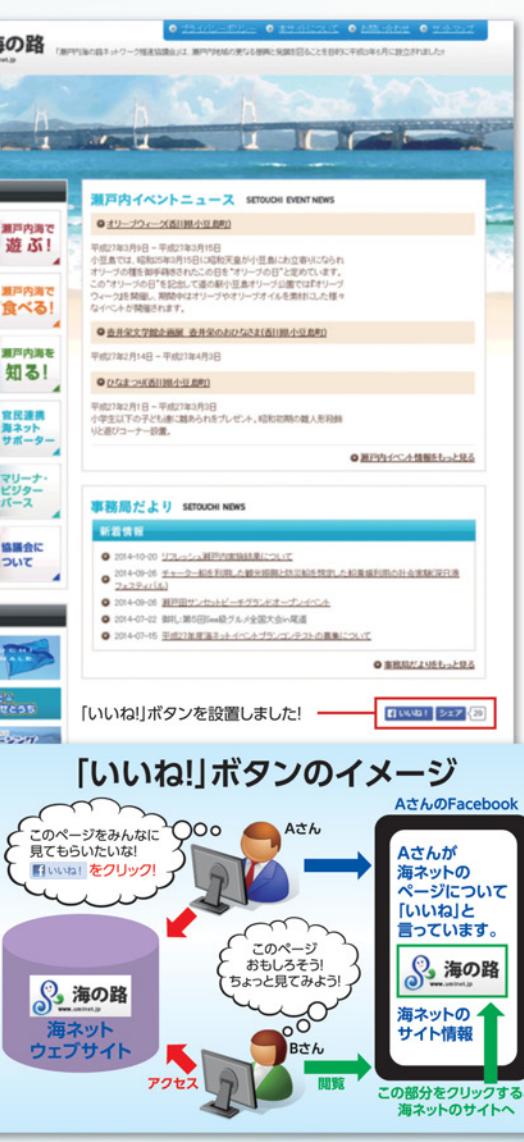
情報発信委員会では、Webサイト「海の路」へのアクセス者数のさらなる増加を目指して、スマートフォンに対応したWebサイト画面の開発やSNSを活用した取り組みを行いました。

まず、実態を把握するためWebサイトのアクセス状況の解析を実施し、解析結果からスマートフォンや携帯電話等からのアクセスが全体の3割に達していること、マリーナ・ビジターバースや「遊ぶ」に関するコーナーに人気があることなどを把握しました。これらの情報よりスマートフォン用画面

の必要性を再確認し、小さな画面でも見やすいデザインを検討し開発を実施しました。

またSNSの活用では、Webサイトに「いいね！」ボタンを設置し、すでにFacebookなどを利用している人からクリックしてもらうことでWebサイト情報の共有・拡大を試みました。

今後もWebサイトのアクセス状況の解析を継続し、よりよい情報発信方法を提案していくことを考えています。



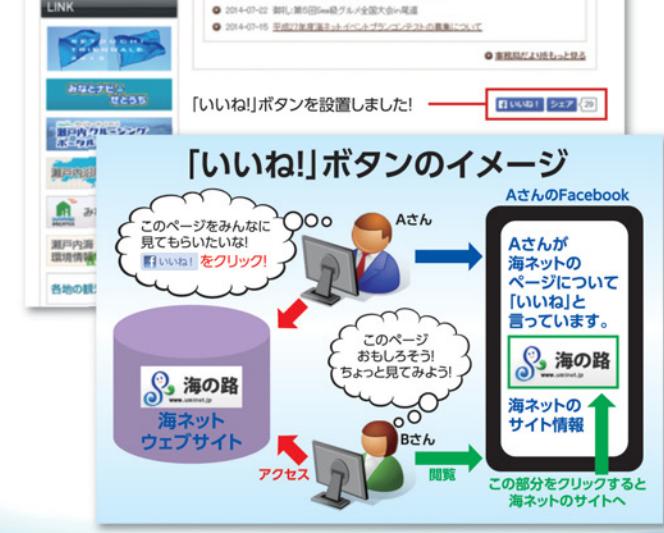
スマートフォン用トップ画面の開発

Webサイトで人気のあるコーナーを選定して小さい画面でも見やすいように表示しました。



SNSの活用(「いいね！」ボタンの設置)

SNSを活用することで、SNSを既に利用している人からその友人等に記事や情報がシェアされ、Webサイトへ誘導される仕組みになっています。



防災委員会活動

情報伝達訓練を実施しました

平成26年6月3日、「瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定(海ネット協定)」の実効性を確保することを目的に、協定締結会員61市町村の参加のもと、情報伝達訓練を実施しました。

今回の訓練では、昨年度の課題であった開催時期を見直し、更には、応援とりまとめ幹事の作業が膨大であったことから作業負担の軽減を図るために、中間とりまとめを行う会員を増やし、また、FAXのみでの情報伝達による回線の輻輳を回避させるため、複数の通信手段の活用を取り入れました。更に、情報伝達の流れをより多くの会員に理解してもらうため、応援会員等の役を増やす事としました。

訓練では、初めて導入した衛星電話のトラブルや書類の受け渡しの不徹底などがあり、訓練時間が大幅に伸びたものの、実際の発災時における対応について課題が明確になりました。また、訓練日を出水期前にしたことで加入会員の9割以上が訓練に参加でき、海ネット協定の実効性の確保につながることことができたと考えております。

訓練終了後には、今後の訓練の参考とするため、訓練参加会員から意見を伺い、「担当する役割への理解が十分でないケースがあった」「書類への記載がまちまちなので記載方法の統一が必要」等の意見がありました。

今後の訓練では、スマートな情報伝達が行われるよう担当の役割の周知や書類の送受信の確認方法を取り入れる等の見直しを図り、引き続き情報伝達訓練を実施していくことを考えております。

瀬戸内海における災害時の広域相互応援訓練を実施しました

平成26年6月28日、「瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援協定」(以降「海ネット協定」)を締結している松山市と呉市の間で、大規模地震等に備えた災害時の相互応援訓練として、初めて船舶を利用した海上輸送訓練を実施しました。

訓練は、広島県内での直下型地震で呉市周辺が被災したとの想定で松山港から呉港へ、また、松山市周辺が南海トラフ地震により被災したとの想定で呉港から松山港へ民間高速船を利用して、飲料水、食料、毛布の物資輸送等を行いました。また、両港を往復する途上の島しょ部でも交通手段が途絶したと想定し、物資輸送と傷病者等の収容・搬送を実施しました。

参加者は、訓練の中心である松山市、呉市の方々のほか、四国運輸局、中国運輸局、愛媛県、広島県のほか、港運協会など約140人になり、四国地方整備局と中国地方整備局も海ネットの事務局として訓練に参加しました。

訓練を行つたことにより、松山市、呉市や四国運輸局、中国運輸局などの関係者と訓練の準備を行う中で寄港する桟橋の現況、使用船舶の調整や必要水深の確認などの問題点が洗い出され、実際に船舶を運用する際に解決しておくべき点が見つかることや、離島支援や地方自治体間の相互応援の重要性を確認できたことなど、大きな成果が得られました。



呉港・物資積込み



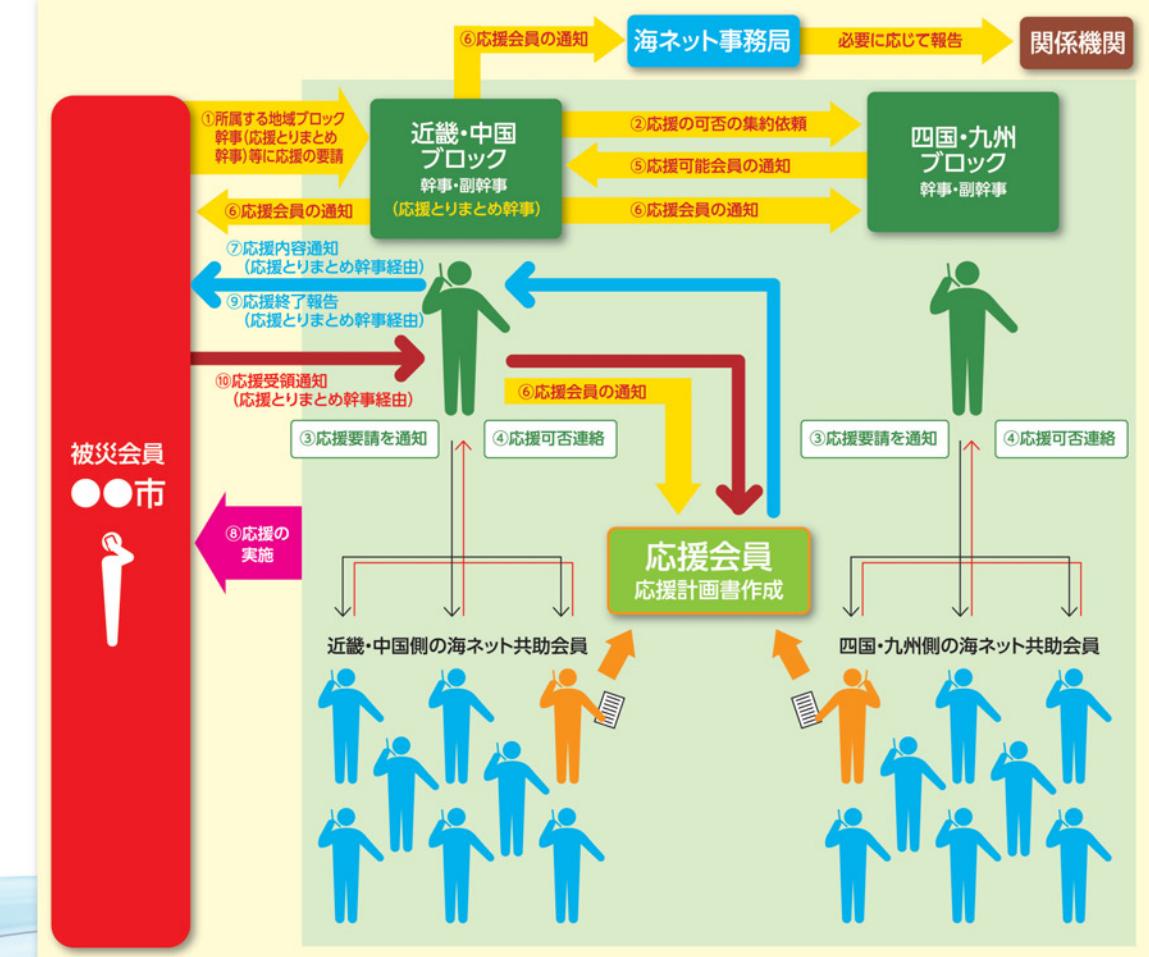
松山港・物資積込み



釣士田港・物資荷揚げ



中島港・傷病者上陸



④第3回広島みなとフェスタ

パイロットグループ／広島県、広島市

実施時期／平成27年3月7日(土)～8日(日)

実施概要／3月7・8日に、みなとの魅力を広く一般市民に発信するため、広島港を中心とした大規模なイベントを開催しました。特に、瀬戸内沿岸のまちや島嶼部の観光PR、特産品の販売やミニクルーズ、船内見学会等を実施することにより、訪れた方々にみなどだけでなく瀬戸内の魅力に気付いてもらうことができ、より一層の観光促進、交流拡大を図ることができました。



個別活動

①チャーター船を利用した観光振興と防災船を想定した船着場利用の社会実験(深日港フェルティバル)

会員名／岬町 実施時期／平成26年6月29日(日)

実施概要／平成26年6月29日、みなどオアシスみさきにて観光旅客船日本丸をチャーターし、深日港と洲本港を結んだ淡路島ツアーや岬町ツアーやを企画しました。非常にたくさんの応募があり、当初の定員300名を406名に増やし、より多くの方々に楽しんでいただきました。船内では淡路島、岬町のPRビデオを放映し、泉州地域の観光パンフレット配布や岬町ツアーハーの参加者には名産品をプレゼントし、淡路島、岬町双方の観光PRを行いました。洲本港では地元有志の阿波踊りで歓迎を受け、深日港では淡路島の特産品の販売や観光PRにより、双方の交流を深めることもできました。参加者からのアンケートも参考に、魅力あるツアーやクルーズを検討し、次年度以降も継続して旅客船イベントを開催するなど会員間の交流を図っていく予定です。



②UNOICHI 海が見える港のマルシェ

会員名／玉野市 実施時期／平成26年10月26日(日)

実施概要／平成26年10月26日、港のロケーションのありのままのよさや、港の新たな魅力を提案し、地域の活性化を図るため「UNOICHI 海が見える港のマルシェ」が開催されました。瀬戸内海の各地から多彩なお店や出演者を招き、季節にちなんだ食や物作り体験、生演奏を楽しんでいただきました。地元関係機関(特に高校生)と連携して実施することにより、地元に対する考え方やみなどの活性化に貢献しようという意識が芽生え、市外からの出演者を招くことで瀬戸内海地域の交流を促進し、今後の会員相互連携・発展につながりました。



③ふくやま港まつり2014

会員名／福山市 実施時期／平成26年11月2日(日)～4日(火)

実施概要／平成26年11月2日～4日、会場となった福山港国際コンテナターミナルには多くの観客が来場し、福山港そのものを肌で感じていただくことができました。こうした市民が港に集まる機会を創出し、港の施設や役割、整備の必要性など、福山港の存在意義を認識していただく機会となるとともに、地域の海洋少年団や市民グループに参加してもらい、一緒にイベントを盛り上げることで、港への理解・親しみを深めてもらうことができました。また、帆船「日本丸」を招致したり、帆布アート等の体験ブースや官民港湾関係者が連携して大型荷役機械のデモンストレーションを開催することで一体感も醸成され、福山港が多くの市民に愛され親しみのある港として認知していただくことができました。



ネットワーク活動支援

①瀬戸田サンセットビーチグランドオープンイベント

パイロットグループ／尾道市、広島県

実施時期／平成26年7月19日(土)、20日(日)

実施概要／7月19・20日瀬戸田サンセットビーチグランドオープンイベントが行われました。真白い砂浜が800mつづくビーチは、中四国随一の海浜スポーツ公園です。サイクリスト向けのホテル、ONOMICHI U2(尾道市)と連携し瀬戸内海の魅力を発信しています。今回のリニューアルオープンに伴うグランドオープンでは、クルージング、海洋スポーツ、郷土芸能である因島水軍太鼓などを実施したところ、非常に評判がよくほぼ満席での実施となりました。また、Sea級グルメ全国大会の同時開催により、瀬戸内海の食の魅力も発信することができ、非常に多くの方々に訪れてもらえる機会となりました。



②中四国・瀬戸内クルージングサミット

パイロットグループ／瀬戸内市、三豊市、新居浜市、福山市、高松市
実施時期／平成26年10月3日(金)

実施概要／平成26年10月3日、5市の自治体からなる「中四国・瀬戸内クルージングサミット」を開催しました。

当日は、クルージング商品の造成に向け、観光で瀬戸内エリアを訪れる人が期待していることなどについての講演を聴いたのち、構成各市が海からならではの観光素材を発表しました。その後、「瀬戸内海国立公園」内の牛窓エリアを体験クルージングで巡り、地域における観光について知ることができました。今後は、これまでの活動で得た知識や感じたことをもとに、広く一般の方にも「クルージング」という海を活かした観光を楽しんでもらえるような商品造成に向けて活動をしていきます。



③姫路港ふれあいフェスティバル(秋版)

パイロットグループ／兵庫県、姫路市

実施時期／平成26年10月19日(日)

実施概要／平成26年10月19日の秋版では更なる試みとして、中播磨地域活動交流メッセと同時開催しました。活動交流メッセは中播磨地域(姫路市、神河町、市川町、福崎町)における県民・団体の「活動の発信の場」であり、開催地を姫路港とすることで、普段みなとに関わることのない内陸部の方々にみなどの魅力を紹介しました。ふれあいスクエアでは、NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」の放映を契機に官兵衛ゆかりの地のご当地グルメ等をワンストップで提供する「官兵衛屋台村」を開設。行列ができるなど来場者に好評を博し、また、イベントに合わせ、「みなどオアシス姫路」の基本施設として認定されている姫路みなとミュージアムに、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会のPRブースを設けることで、多くの来場者に海ネットの基本情報や瀬戸内のイベント情報などを知っていました。



④「飛鳥II」寄港歓迎イベント

会員名／小松島市 実施時期／平成26年10月19日(日)
実施概要／平成26年10月19日、客船「飛鳥II」が小松島港に寄港しました。入港後、地元音楽隊による歓迎演奏を行い、入港歓迎セレモニーを行いました。セレモニーでは、小松島阿波踊り振興会所属連による阿波踊りにて乗客を歓迎すると、船上や岸壁から多くの乗船客の方がご覧になり、一緒に踊る方もいるほど大盛り上がりました。船内では小松島市観光ボランティアガイドによる寄港地観光案内を行い、出港時には市民によるペンライトでのお見送りを行いました。



⑤「ロストラル」寄港歓迎イベント

会員名／広島県
実施時期／平成26年10月19日(日)
実施概要／平成27年1月8日、「ロストラル」が広島港へ寄港しました。入港時にはゆるキャラによるお出迎えを行い、歓迎セレモニーとして、花束の贈呈、樽酒のふるまいでの歓迎しました。花車、熊野筆等地元特産品の販売を実施し、交流イベントとして、地元高校の書道部によるしゃもじへの筆入れやパフォーマンスを行い多くの人に喜ばれました。出港時には、吹奏楽による演奏により大変喜ばれました。



⑥「飛鳥II」寄港歓迎イベント

会員名／小豆島町 実施時期／平成26年10月20日(月)
実施概要／平成26年10月20日、客船「飛鳥II」が「名古屋・秋の瀬戸内クルーズ」にて小豆島に寄港しました。入港時には保育園児による鼓笛演奏や歌、小豆島の記念品贈呈、オリーブの新漬けやドーナツの試食などでおもてなしをしました。秋の小豆島は、オリーブの収穫時期や日本三大渓谷美を誇る寒霞渓の紅葉など、まさに小豆島のあふれんばかりの魅力を発信するとても良い時期であり、小豆島の活性化ひいては瀬戸内海の魅力をPRすることができました。



⑦客船「ぱしふいいくびいなす」入出港歓迎行事

会員名／下関市
実施時期／平成26年10月21日(火)
実施概要／平成26年10月21日、客船「ぱしふいいくびいなす」が、神戸・横浜を発着港とし秋の日本一周探方クルーズにて下関港に寄港しました。寄港に併せて、歓迎舞踊の披露や吹奏楽団の演奏等の歓迎セレモニーを行い、入港記念品の贈呈やふく鍋をふるまうなどのおもてなしをしました。



クルーズ船等寄港地歓迎イベント支援

①「にっぽん丸」出港歓送行事・「ぱしふいいくびいなす」入港歓迎行事

会員名／兵庫県
実施時期／平成26年8月20日(水)
実施概要／平成26年8月20日、「にっぽん丸」の出港と「ぱしふいいくびいなす」の入港歓迎行事を行いました。姫路市消防音楽隊による演奏、地元のゆるキャラによるお出迎え、ゆるキャラたちと地元のミュージカル劇団による歌とダンスの「おもてなしウェルカムショー」などを催し、クルーズ船の寄港を歓迎しました。加えて、入港イベントでは、姫路観光コンベンションビューローによる観光案内を実施し、出港イベントでは、同音楽隊の演奏とともに大勢の市民の方が、紙テープを使って見送りを行いました。



②「ザ・ワールド」寄港歓迎イベント

会員名／香川県
実施時期／平成26年10月1日(水)～2日(木)
実施概要／平成26年10月1日～2日、客船「ザ・ワールド」が2014年アジアクルーズで高松港に寄港しました。入港時には高松城鉄砲隊による火縄銃パフォーマンスを行い、さぬきうどんを振る舞って歓迎しました。また、フットサル親睦試合や書道体験、庵治石材加工品と盆栽の展示などを通じて地元の人々と乗船客との交流の機会を持つことが出来ました。世界唯一の分譲マンション型客船であることから寄港の情報は非公開でしたが、歓迎行事の告知を行い、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会の後援であることをPRすることができました。



③「ロストラル」寄港歓迎イベント

会員名／北九州市 実施時期／平成26年10月18日(土)
実施概要／平成26年10月18日、フランスのクルーズ客船社カンパニー・デュ・ポナンの「ロストラル」が日本寄港クルーズにて北九州港へ寄港しました。入港時には歓迎放水や保育園児による太鼓演奏、岸壁での日本酒試飲販売・土産物販売等を行い、船内においてはお茶や神楽、着物パフォーマンスといった日本の文化でおもてなしをしました。北九州港と関門地域のにぎわい創出、観光振興はもとより瀬戸内とアジアを結ぶクルーズの寄港地として魅力をPRすることができました。



クルーズ船誘致活動

後援活動報告

①マリン・グラン・フェスタ2014

日時：平成26年4月5日(土)～6日(日)
場所：広島観音マリーナ(広島市)
主催：広島ボートショー実行委員会・海の駅ネットワーク・国土交通省中国運輸局
概要：第六管区海上保安本部
概要：海事思想の普及、舟艇産業の振興、安全なマリンレジャーの推進や地域の活性化を促進するため、ボートの体験乗船会やセミナー、ボートの陸上展示などのイベントが行われ、約6千人もの人が集まりました。

②第1回中国地方藻場・干潟サミット

日時：平成26年6月21日(土)
場所：廿日市市総合健康センター「あいプラザ」(廿日市市)
主催：中国地方整備局 広島港湾空港技術調査事務所
概要：瀬戸内海沿岸における藻場・干潟の再生保全の取り組みや今後の藻場・干潟の環境を守る活動を通して豊かな海の生態系を守るために取り組みについて話し合う初めてのシンポジウムが行われました。中国地方で藻場・干潟を有効活用している5市(尾道市、廿日市市、笠岡市、江田島市、周南市)の各市長が情報交換をおこない、「第1回中国地方藻場・干潟サミット共同宣言」が発表されました。

④瀬戸内クルーズセミナー！ おもてなし実地研修

日時：平成26年11月17日(月)～18日(火)
場所：瀬戸内海観光連携推進会議
主催：瀬戸内海観光連携推進会議
概要：クルーズ船寄港のためのセールス方法や、乗船客へのおもてなしのノウハウなどを地域に広く普及させ、瀬戸内海により多くのクルーズ船の寄港を誘致することで地域の活性化を図るために実施されました。実際に「飛鳥II」の入港歓迎行事や物産品販売を見学し、船内にて意見交換会も行われました。

③全国公募展第2回「瀬戸内の魅力」 フォト&メッセージ100選

日時：平成26年10月10日(金)～平成27年12月31日(木)
場所：下関・国際会議場、下関港、あるかぼーと岸壁(下関市)
主催：瀬戸内みなとオアシス連絡会議
概要：地元住民をはじめ、瀬戸内の海・みなとまちを訪れる全ての人を対象に、瀬戸内の魅力を満載した写真にメッセージを添えた作品を公募し、入選作品を瀬戸内の「みなとオアシス」及び地域のPR素材として活用することで、瀬戸内の恒常的な人の賑わいと地域活性化を図るために行われました。

⑧「飛鳥II」出港イベント

会員名／呉市
実施時期／平成26年10月24日(金)
実施概要／平成26年10月24日、客船「飛鳥II」が呉港に初入港し、歓迎イベントを開催しました。和太鼓演奏などを実施することで歓迎の意を表すとともに、呉市や瀬戸内の魅力をPRすることができ、今後の更なるクルーズ船誘致につなげていくきっかけや、瀬戸内海全域の振興を図ることができました。



花束贈呈



パルーンリリース



船内見学参加者



テープ投げ

⑨「ぱしふいいくびいなす」 寄港歓迎イベント

会員名／岡山県 実施時期／平成26年11月21日(金)
実施概要／平成26年11月21日、クルーズ客船「ぱしふいいくびいなす」が宇野港へ寄港しました。寄港イベントとして、地元高校吹奏楽部による演奏やテープ投げ、バルーンリリースが行われ、盛大な歓迎イベントとなりました。また、「ぱしふいいくびいなす」の船内見学会も開催され、多くの人にクルーズの魅力を知ることができました。



物産展



入港時の歓迎演奏

⑩客船「にっぽん丸」寄港歓迎式典

会員名／中津市
■実施時期／平成27年1月8日(木)
■実施概要／平成27年1月8日、「にっぽん丸」が「新春初旅にっぽん丸クルーズ」にて、ツアー3日目に中津港へ寄港しました。入港時は市職員吹奏楽部による演奏を行い、埠頭にて物産展を開催しました。歓迎式典では中津市長、船長の挨拶の他、乗船客や船長ら乗組員へ記念品と花束の贈呈を行いました。また、にっぽん丸から寄港記念プレートが中津市へ贈呈されました。



物産展

アジア・クルーズ誘致用パンフレット等作成及びプロモーション活動

会員名／香川県
実施概要／アジア・クルーズを行っている船社及びアジア・クルーズを計画している船社を対象とした港PR用パンフレット(寄港地マップ)を作成。寄港地マップには、商業施設や観光施設情報、両替施設、岸壁から近いスーパー・マーケット等の情報に加え、乗客員及び乗組員からの問い合わせが多い無料WiFiスポットの情報を掲載しました。また、世界最大のクルーズ・コンベンション「クルーズ・シッピング・マイアミ2015」に出展し、港PR用パンフレットを用いて、瀬戸内海を航行するクルーズ造成を働きかけ、瀬戸内地域への寄港誘致を図りました。



アジア・クルーズ誘致用
パンフレット



マイアミでの誘致活動



第8回 瀬戸内海首長サミット

「瀬戸内・海の路 観光と防災の融合」

平成26年5月30日 愛媛県松山市

● 瀬戸内海首長サミット参加市町村

The map illustrates the geographical extent of the Seto Inland Sea, spanning across several prefectures in Japan. Blue lines connect the locations of the participating municipalities to the central summit area in Matsuyama, Ehime Prefecture. The municipalities involved are:

- 周防大島町長 椎木 巧**: 山口県周防大島町
- 入山 欣郎**: 大竹市長
- 田中 達美**: 江田島市長
- 吉田 隆行**: 坂町長
- 小村 和年**: 県市長
- 天満 祥典**: 三原市長
- 栗山 康彦**: 浅口市長
- 黒田 晋**: 玉野市長
- 阪口 伸六**: 高石市長
- 丸山 隆英**: 四国地方整備局次長
- 田邊 俊郎**: 近畿地方整備局副局長
- 大野 正人**: 九州地方整備局副局長
- 尾藤 勇**: 中国地方整備局副局長
- 松原 裕**: 国土交通省大臣官房審議官
- 澤山 健一**: 四国運輸局長
- 新貝 正勝**: 中津市長
- 大城 一郎**: 八幡浜市長
- 清水 裕**: 大洲市長
- 野志 克仁**: 松山市長
- 青野 勝**: 西条市長
- 篠原 実**: 四国中央市長
- 綾 宏**: 坂出市長
- 岬町 田代 堯**: 和歌山県岬町
- 和歌山市長 大橋 建一**: 和歌山市
- 湯浅町長 上山 章善**: 湯浅町

Each participant is shown in a small portrait with their name and title below it. The portraits are arranged in a grid-like fashion around the central map.

※出席者の役職名は平成26年5月30日現在です。